

2008年(平成20年)2月 7日

## 相模原事業所内に「デジタル グラフィックス センター」を完成

屋外広告やバス・電車ラッピング用のマーキングフィルムのトップメーカーである住友スリーエム㈱は、相模原事業所(神奈川県相模原市)に「デジタル グラフィックス センター」を設置、このほど運用を開始しました。

3M社で開発されたマーキングフィルムは、1970年代に日本へ導入され、「貼る塗料」としてサイン・ディスプレイ業界に広く普及しました。80年代後半以降は大手企業のC I(コーポレートアイデンティティ)・V I(ビジュアルアイデンティティ)向けの材料として定着しています。

また、グラフィックス表現の手法として定着しているデジタル出力が登場してからおよそ20年が経過しています。「写真的な表現を、少ロットでありながら低コストで実現できる」という画期的な特性から、用途に適したフィルムの開発などとともに、バナー、フロアグラフィックスなどへ展開され、バス、電車を中心としたラッピングやタウンジャックなど広告・宣伝の新しい手法を生み出しました。

いずれも「色を忠実に再現する」ことは重要視され、印刷機器やフィルムの多様化にあわせて対応を進め、サイン・ディスプレイ業界のニーズに応え続けてきました。

運用を開始する「デジタル グラフィックス センター」は広さ315㎡で、複数のエリアで構成されています。サイン・ディスプレイ業界で使用されている主要な大型印刷機器を6台設置し、当社が製造するフィルムとの印刷適合性の評価を行うプリンタルームや、グラフィックス関連製品の施工特性を評価するアプリケーションルームなどを備えています。屋外では耐候性の評価などを実施いたします。



デジタル グラフィックス センターのプリンタルーム

また、クライアント、広告代理店やサインメーカーを招いての課題解決や、印刷機器メーカー等との協働の場として活用することを意図しています。

住友スリーエムは「デジタル グラフィックス センター」の開設、運用を通じて、サイン・ディスプレイ業界における“グラフィックス ソリューション プロバイダー”となることを目指します。